

七尾市の人口減少と能登地域の衰退 (コミュニティ暗号貨幣 SATO を活用した地域活動の可視化)

指導教員 金沢大学 先導学類 教授 松島大輔

参加学生 岡本岳人・中村温雅・花田怜大・定免泰誠

1. 活動の成果要約

「コミュニティ暗号貨幣 SATO (Sustainable & Autonomous Token as Orientation of satoyamasatoumi)」とは一昨年 11 月に里山里海の価値の可視化とその価値の分配を目指す「能登里山里海 DX コモンズ構想」における価値分配のツールとして、七尾で実証を実施した地域通貨である。この七尾での実証に引き続き、里山里海を中核、「コミュニティ暗号貨幣 SATO」をツールとして地域の課題解決を行うコミュニティへの市民理解と参画を促すワークショップと、地域を超えて連携した広域な SATO コミュニティ形成に向けた各地との意見交換を実施した。これによって (1) 市民参加型で SATO 使用や里山里海への貢献との結びつきを体験してもらうワークショップを行い、(2) さらなる市民理解と、コミュニティ形成を図るツールとなる SATO ゲームの開発を行い、(3) 企業、団体、地域とのさらなる連携に向けた連携の強化、(4) SATO ゲームを用いた体験型ワークショップの開催、(5) 北前船寄港地を繋ぐ SATO ネットワーク形成、につながった。

2. 活動の目的

「コミュニティ暗号貨幣 SATO」は、「里山里海」という人間が適度に介入を行う事で生物生産性と生物多様性が高められた場所の潜在的価値や、個人、法人、組織が行う貢献活動（ここでいう「適度な介入」）を DX によって定量化した上で価値として可視化、分配する事を目指した「能登里山里海 DX コモンズ構想」における分配ツールである。人口が減少し、地域内から「ヒト・モノ・カネ」が流出する里山里海を取り巻く中山間地域において「里山里海」や里山里海の整備という「貢献活動」を価値として可視化し、活用する事で新たな経済循環が生み出せると考えている。2021 年度の採択に引き続く今回の事業においては SATO の流通に先立って、どのような「里山里海」の価値や「貢献活動」の価値が可視化、利用可能であるかを市民に体験して考えてもらい、「コミュニティ暗号貨幣 SATO」への理解を深めてもらう事を目的とした。

3. 活動の内容

「コミュニティ暗号貨幣 SATO」の流通を目指し、住民の認知、理解を図る取り組みと、「コミュニティ暗号貨幣 SATO」を媒介ツールとして今後取り組むべき地域課題の発掘を目的としたワークショップを中心とする活動を実施した。それぞれについて以下に示す。

<ステップ I> SATO 事業実証の成果

ステップ I では、「コミュニティ暗号貨幣 SATO」がどのような「貢献活動」を実施した際に分配、

配布されるのかを市民には身近なごみ拾い活動を例として「貢献活動」とその後の SATO の配布、店舗での利用を金沢大学の 1 年生約 60 名と、市民参加者 40 名に体験してもらった。また同イベントの翌日には、七尾市矢田郷地区で、多世代が協力して共に地域の課題解決を目指す「YATAGOU ビレッジセカンド大学」が開校し、前日に利用した SATO の地域での活用について学生目線からの発表を実施した。

<ステップⅡ> SATO ネットワーク形成と普及・啓蒙のためのツールとしての SATO ゲーム

ステップⅡでは、ステップⅠ後の関係者内での打ち合わせにおいてより簡単に「コミュニティ暗号貨幣 SATO」と「能登里山里海 DX コモンズ構想」が目指す「里山里海」中心のコミュニティについて理解してもらうツールとしてゲームが挙げられ、ボードゲームでの試作に至った。試作においては、地域の方が遊ぶ際に、身近な地域の実情、即ち特産品や、地域ごとに特有の課題を踏まえた内容にすべく、打ち合わせを行い、学生を中心に開発を実施した。

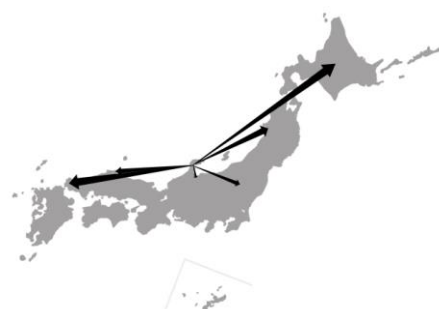
<ステップⅢ> SATO ゲームの実証について

ステップⅢでは、ステップⅡにおいて試作を行ったボードゲームである SATO ゲームの実証を各地での意見交換の際に実施した。9 月上旬に秋田県秋田市内でワークショップとして実施、ブラッシュアップをした後に、12 月下旬に七尾市内での「能登 SDGs 市民大学」内でワークショップとして実施、2023 年 1 月中旬に島根県安来市でワークショップとして実施した。

また、上記の活動と併せて、連携が可能な個人、企業、団体との連携を図り、北海道美瑛町、福島県会津美里町、富山県南砺市、山口県下関市、島根県安来市の自治体や企業関係者との意見交換を行った。既に地域通貨を導入している地域については、それを広域なコミュニティとしてアップデートする事を目指して今後も連携していく運びとなった。このコミュニティを、日本海側にあるかつての北前船寄港地を中心にネットワーク化していく事で、ヒト・モノ・カネの流れや、災害時における連携等、多方面にわたって石川県に裨益すると考える。

実施日	概要
2022年6月4日	七尾市でのSATO体験イベント
2022年6月5日	七尾市内でのYATAGOUビレッジセカンド大学開校式における学生と地域住民の意見交換
2022年9月5日	秋田県秋田市内でのSATOゲームワークショップ
2022年10月19日	山口県下関市の自治体関係者との意見交換
2022年11月22日	福島県会津美里町の自治体関係者との意見交換
2022年12月1日	富山県南砺市の自治体関係者との意見交換
2022年12月12日	北海道美瑛町の自治体関係者との意見交換
2022年12月22日	七尾市でのSATOゲームワークショップ
2023年1月14日	島根県安来市の自治体関係者との意見交換
2023年2月2日(予定)	国際会議第22回お互いフォーラムでタイ王国政府代表团への発表

左表：主な活動年表



右図：今年度の関係地域の拡大図

4. 活動の成果

以上の活動による成果は以下の通りである。2021 年度の事業に引き続き「里山里海」を中核とするコミュニティ形成においては市民参画が必須であり、そのための理解を促すツールとしてボードゲームの開発と実証に繋げることが出来た事は非常に大きな成果である。

- ① 市民参加による「コミュニティ暗号貨幣 SATO」の体験ワークショップの開催
- ② 大学生と住民が地域課題解決について話し合う機会の創出（Living Lab の実現）
- ③ 市民理解を図るツール：SATO ゲームの開発、実証
- ④ SATO コミュニティ形成と連携パートナーの拡大

5. 次年度以降の計画

次年度以降は、2025 年大阪・関西万博をゴールに環境共生圏としての SATO 経済圏の確立を目指し、その準備を行う。まずは SATO ゲームの本格実装とそれを用いたより一層の市民理解と SATO コミュニティ参加者の相互交流を目指す。特に地域を超えた広域な SATO コミュニティ形成を目指す上では、参加者同士の交流もオンラインで行われる事が想定される為、コミュニティ参加者同士の交流ツールである SATO ゲームもオンライン実装を目指す。その上で SATO ゲームを通じてゲームからリアルへの SATO 利用へとなし崩し的に展開する事を目指す。

6. 活動に対する地域からの評価

本活動について、ワークショップに参加した七尾市民を中心に今後進展への期待の声を頂いた。

（1）6 月に七尾市内で開催したイベント

七尾市在住の小学生親子を対象とした 6 月のイベントでは、

- ごみ拾いのようなボランティア活動に SATO のような応酬がもらえる取り組みは興味深く、子どもから大人までが参加しやすいと感じた。体験を通して「コミュニティ暗号貨幣 SATO」を知るきっかけとなった。
- 地元住民と、大学生が交流しながら地域の課題を考える機会がないため、学生目線で見えるいまの地域の課題を知る良いきっかけとなった。

（2）9 月、12 月、1 月に開催したワークショップ

- これまでのゲームとは違い、他者との関わり、協力をしながら勝利を目指すという感覚が非常に新しく、学びになった。
- ゲーム内での「SATO」の配布や貢献活動の循環が実際に行われたら、生活も、「里山里海」の自然も共に豊かになるのではないかと感じた。
- 「里山里海」への貢献活動は SDGs 教育に、通貨である「SATO」の使い方は「金融教育」にそれぞれ活かせるのではないかと感じた。

以上のように今年度は昨年度に引き続いて、市民理解を得た上で、「能登里山里海 DX コモンズ構想」を共創するためのイベント、ワークショップ活動を実施した。同時に関係事業者、自治体の拡大を目指し、コミュニティに対するさらなる賛同事業者、賛同自治体を得た。こうした事業者、自治体との連携、交流は、それぞれの活性化に寄与し、それは石川県内の地域課題についても同様である。